

【活動内容・感想】

私は2022年9月20日から9月29日にかけて、インドネシアのスマトラ島パダンにて京都大学防災教育の会（Kyoto University Disaster Prevention School: KiDS）の活動を行った。本活動は、清野純史教授が2004年のスマトラ島沖地震を機に始めたものであり、インドネシアの小学校を訪問し、現地の小学生に地震や津波発生のメカニズムや避難行動の重要性を教えることを目的としている。本年度は、上記の小学生を対象とした防災教育の実施及び現地大学との交流を行った。

本学からのインドネシア人留学生の参加者がいなかったため、今年はパダン州立大学（Univesitas Negeri Padang: UNP）の学生と共同で活動を行った。小学校1校あたり約60分の講義の時間をもらい、前半はインドネシア語を使った劇、後半はカルタを使ったゲームを実施した。滞在期間中に計4つの小学校を訪問し、どの小学校でも生徒たちの反応から十分な手ごたえを得ることが出来た。スマトラ島は地震が多い地域ということもあり、小学生たちも基本的な情報は知っている様子であった。しかし、UNPの学生曰く普段は防災教育の授業がほとんど無いそうで、本活動が貴重な機会になっているのではないかと思う。また、パダンが海沿いの町であることから、今回の活動を機に子どもたちの津波に対しての意識が変わっていることを願っている。

UNPで主に日本語を専攻している大学生との交流会にも参加した。インドネシアの大学生たちの日本への関心度は非常に高く、日本での生活やアニメ・食などの文化と幅広い話題について話し合った。更に質問の中で東日本大震災の経験談を聞かれ、当時の率直な感想を話すとともに、スマトラ沖地震の経験談を話してもらった。互いの経験を照らし合わせたことで、KiDSが行う防災教育の意義や自身の研究について改めて考えるきっかけになり、非常に意義のある交流会だったと感じている。

この度、コロナ禍により中断していた本活動を再開し、非常に充実した日々を送ることが出来た。最後になりましたが、本活動を助成していただいた京土会関係者の皆さまに心から感謝申し上げます。



インドネシア語で行う劇



UNP の学生との交流会